



象の鼻

作 寺村 輝夫
画 和歌山 静子



あかね新作幼年童話 2

つなひき わっしょい

- | | |
|------|---|
| ♣発行 | 1974年11月5日第4刷 |
| ♡著者 | <small>てらむらでる お</small>
寺村輝夫 |
| ♠発行者 | 岡本陸人 |
| ◇発行所 | 株式会社 あかね書房
東京都千代田区西神田3-2-1
電話(03) 263-0641<代>
振替 東京64150 |
| ♣印刷 | 株式会社 精興社 |
| ♡写植 | 株式会社 田下フォト・タイプ |
| ♠製本 | 土開製本株式会社 |

NDC 913

寺村輝夫

つなひき わっしょい

あかね書房 1974

77P. 23cm (あかね新作幼年

童話 2)

8393-11002-0027

© 1972 Printed in Japan 著者との契約により検印廃止
定価はカバーに表示してあります
落丁本・乱丁本はおとりかえします



作 寺村輝夫 画 和歌山静子

つなひき わっしょい

あかね新作幼年童話 2

アフリカの 大きな^{おお} 森^{もり}に、
とびうさぎの ボロコが
すんでいました。

ボロコは、とんだり
はねたり するのが とく
でした。よく あそびまし
た。そして、よく おな
かを すかしました。

ボロコは、くさや 木^きの



みが だいすきです。でも、
ボロコは かんがえました。

「もつと おいしい ものが
ないかなあ。」

ボロコは、あっち こっち
おいしそうな ものを

さがして、とびあるきました。

そして、川かわぎしまで やって
きました。





大きな川かわでした。

ボロコには、川かわのむこうがよく見みえないほどでした。

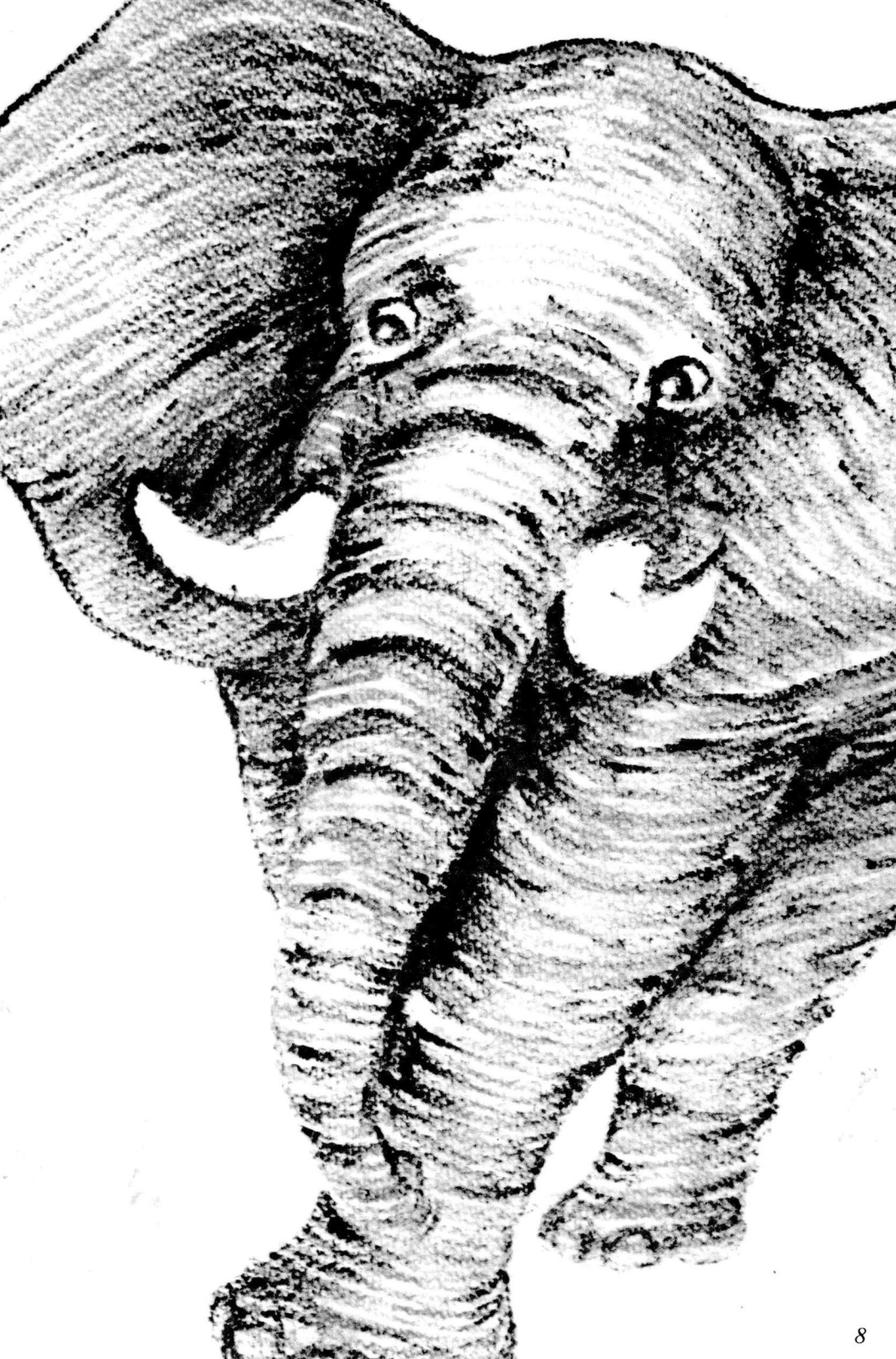
「そうだ。川かわのむこうへいけば、すてきな
ごちそうがあるかもしれない。」

けれども、ボロコは小さなとびうさぎです。

いくらとぶことがじょうずでも、この川かわを
とびこすことはできません。

「うーん。どうしたらいいかなあ。」





そこへ、ぞうが 水^{みず}を のみに やってきました。

ボロコは いいことを かんがえました。なにしろ
ボロコは、森^{もり}じゆうで いちばん あたまが よくて、
ちよつぴり ずるがしこい どうぶつでした。

「ねえ、ぞうさん。」

ボロコは、ぞうに いいました。

「いくら きみが 大^{おお}きくて、せが たかくても、

この 川^{かわ}を あるいて わたることは できないね。」

ぞうは、むつと おこつて こたえました。

「こんな川、ひとまたぎだ。」

「ぼくが あたまに のつたら、だめでしょう。」

「ばかに するな、この ちび。」

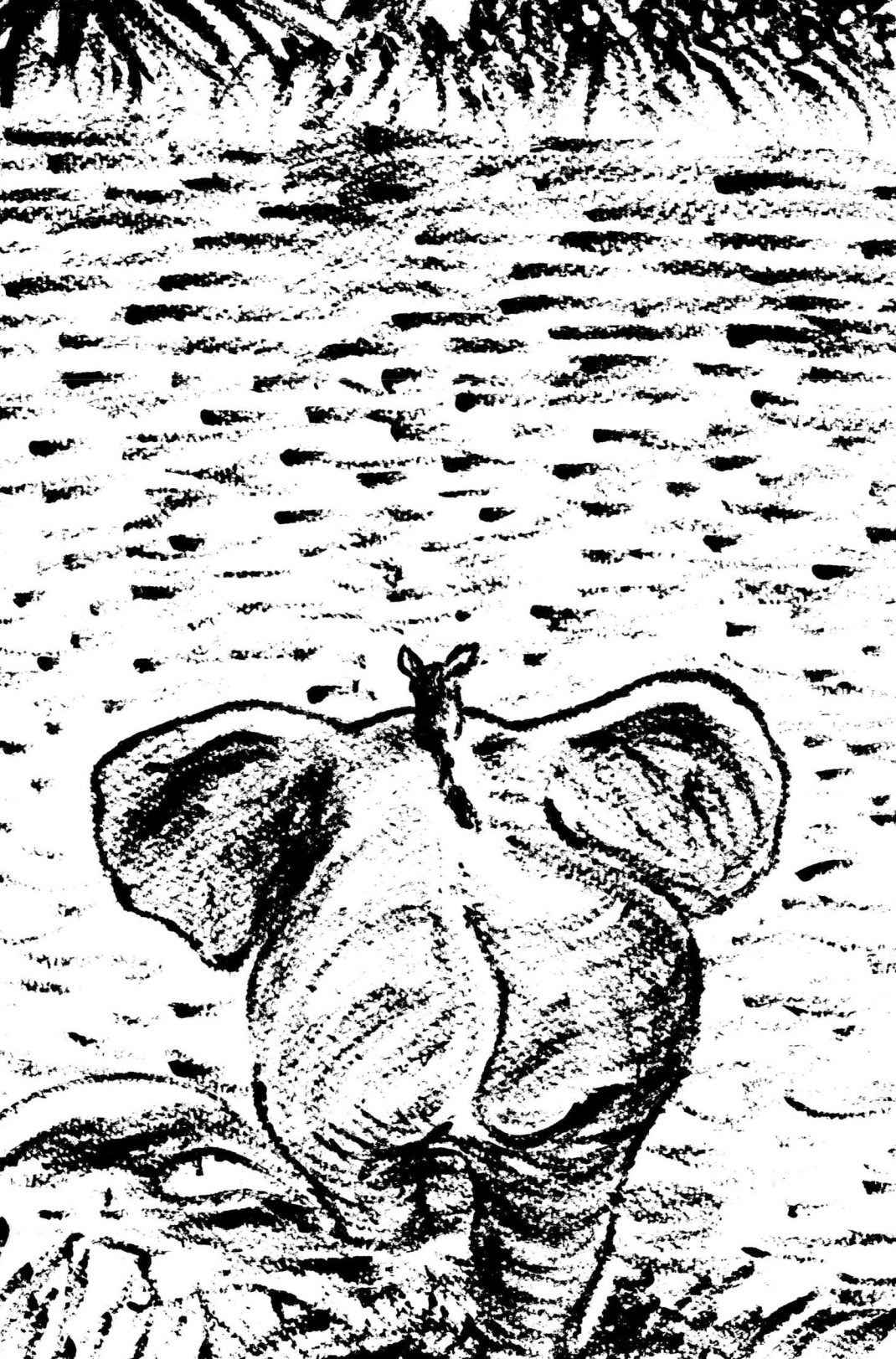
「やめたほうが いいんじゃないかな。」

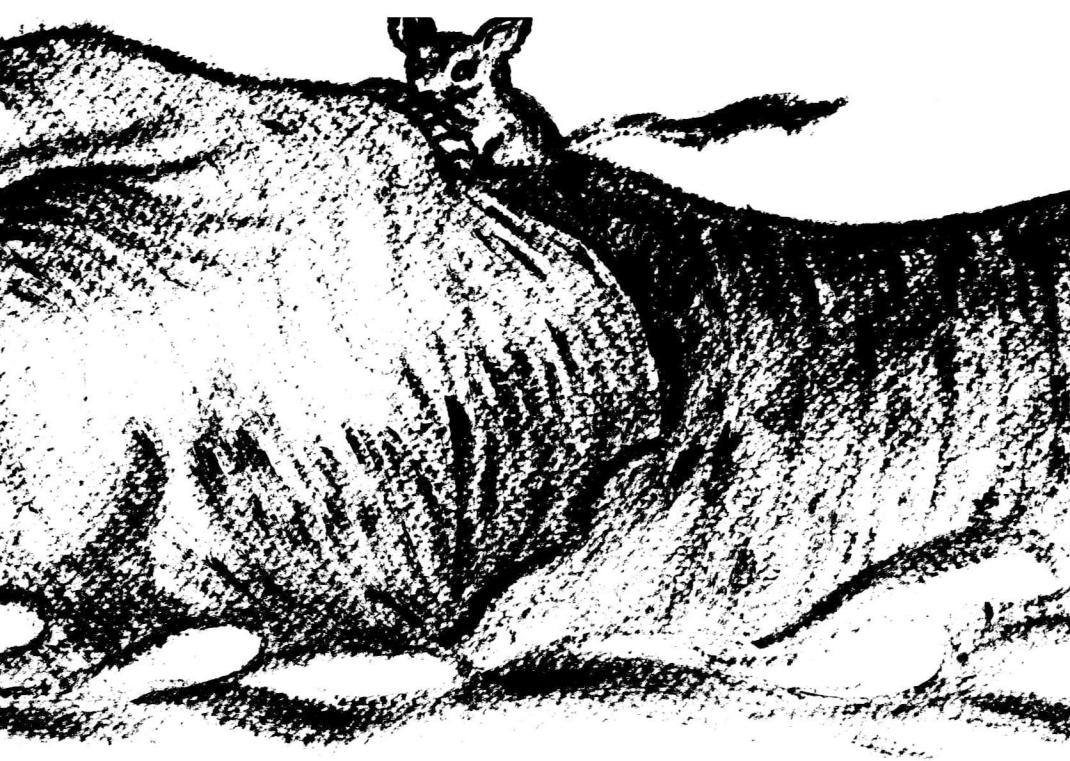
「やかましい。さあ、のれっ。」

ボロコは、にやつと わらって、ぞうの あたまに とびのりました。

ぞうは、ざんぶと 川にはいって いきました。

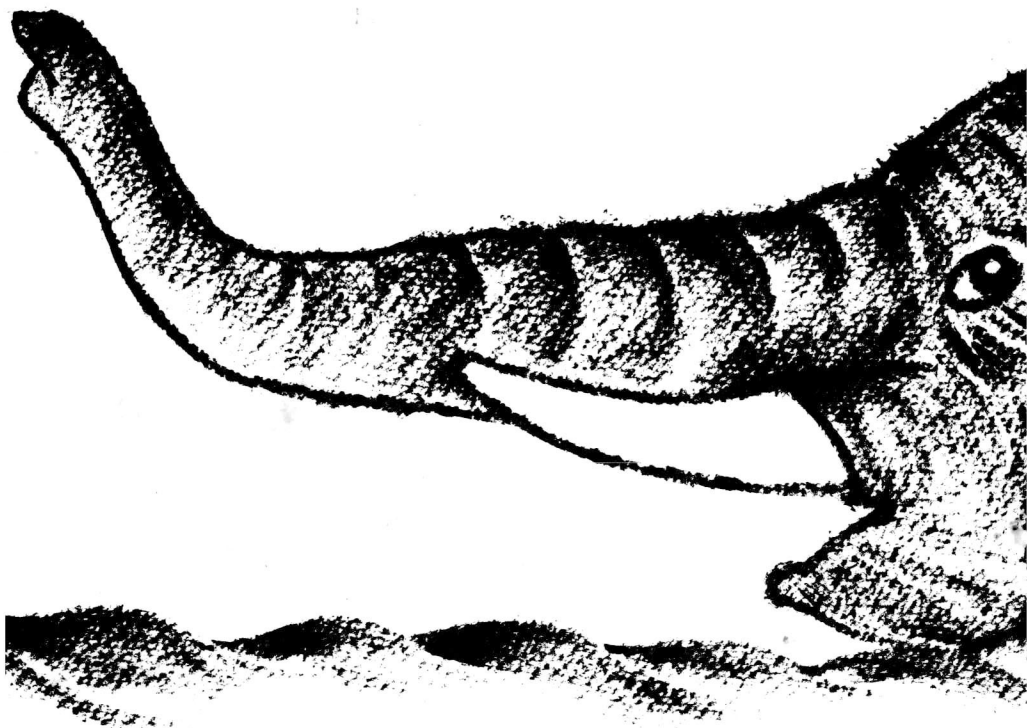
—— しめしめ。うまく いったぞ——。





ところが ボロコは、もう
いちど にやり。ぞうの
あたまの 上^{うへ}に、はちの
すが のつていたのです。
はちが みつを かためて
つくった、おいしそうな
すでした。

ボロコは、ぼりぼり
かじりだしました。



すると、ぞうが 音を

きいて、

「やい ちびすけ。あたまの上^{うえ}にあるものを、いじるな。」

はちの すは、ぞうの
だいじな ごちそうでした。

「いやあ ぞうさん。これは、
すに たかってくる はえを
おいはらう 音^{おと}ですよ。」



川^{かわ}は だんだん ふかく

なつて、ぞうの からだは、

もう あたまが 水^{みず}の

上^{うへ}に 出^でている だけでした。

「ぞうさん。こわかったら、

ひきかえしても いいですよ。」

ボロコは、いいながら

ぼりぼり むしゃむしゃ……。

ぞうは しんぱいです。



「おい　ちび。まだ　音^{おと}を

たててるな。」

「……いやあ　ぞうさん。

これは、すが　おちそうに

なるんで、おさえている

音^{おと}ですよ。」

そう　いいながら、

ボロコは　はちの　すを、

みんな　たべてしまいました。